

Title	京都帝國大學文學部陳列館考古圖録(考古學教室編, 昭和五年三月發行)
Sub Title	
Author	松本, 信廣(Matsumoto, Nobuhiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1930
Jtitle	史学 Vol.9, No.3 (1930. 9) ,p.172(528)- 172(528)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19300900-0172">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19300900-0172</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ボサマ小便壺(しよべつぼ)で顔(ツラ)洗らた、其手でお釋迦様(さん)に團子上げだ、お釋迦嗅(くさえ)で鼻まげた。

ミジヨケナイ 一〇九

メジヨケネえ、ミゾケナえ は隣れださいふ意味のやうだ。乞食の子が雨に濡れてシヨポく来るのを見て、メジヨケネえ

さいふやうだ。

唾 一一一 ツバギ。ツバゲ (ギ・ゲ半)

唾 一二二 アグド (グド半)

虎杖 一一二 ドンゴエの事かと思ふ。

「火葬場(ヤキバ)のドンゴエ」さいふ譬がある。火葬場のドンゴエは早く大きく成長るので、柔になつて居るから、觸れるさ直ぐ折れ易い故に、人間も身體のみ高く大きくて、何の役にも立たぬ子供をいふやうだ。

出双庖丁 一一四 ナマグサボーヂョ。ナマゲサボーヂョ。

私が「ホーヂョ」さいふつたら何んの事か解らなかつた、それで

「ホーチョ」も濁らずにいつたら直ぐ解つた。

直綿 一一四 マロダ (ダ半)

白水 一一六 シロミツ

余り長くなつたから此位で擱筆。(昭和五・八・十七、國分剛二)

京都帝國大學 考古圖錄 (考古學教室編) 昭五五年三月發行

京都大學の考古學教室がその陳列品の豊富をもつて知られてをることば云ふまでもない。大正十一年同陳列品の圖錄を公けにし

て以來昭和三年に再版が出版され、更に本年に至りその増補三版が公けにせられた。その蒐集品の多くは既に研究報告書により繪葉書により學界に紹介せられてをるけれども本圖錄中にはそれ以外のものまた尠少ならぬ。その上兎に角全てが一つに纏められてあるのは、重寶此上もない。今後同陳列館を訪れるものは是非前に一覽すべきものであり、また既に一見した者も之によつてその記憶をよみがへらし得るであらう。圖版全て百二十日本朝鮮支那歐洲埃及希臘西亞諸國印度アメリカにわたり、微を盡し、細を穿つてをる。これで郵税共五圓の定價は、決して高價でない。たゞ難をいへば、所々少しく誤植脱落あること、たゞは第六五圖に數字番號なきことなどである。國史東洋史西洋史研究者が座右に備へをくべき良書の一つとして本書を推薦したい。(希望者は京大考古學教室宛に申し込むべし) (松本信廣)

朝鮮古蹟圖譜第十冊 (朝鮮總督府發行)

朝鮮に於ける木造古建築は、數乏しくかつては日本建築の母胎となりしその優秀なる技術も僅かに高麗期の二三及び朝鮮後期のものによつてその餘韻を窺ふのみである。本圖譜は、宮殿建築の代表とも云ふべき景福宮、昌德宮、昌慶宮の寫眞及びプランを收めてをる。雄大壯麗なる景福宮勤政殿、石柱美しき慶會樓、風致愛すべき昌德宮秘苑内の諸小亭等吾人を魅する諸建築は鮮明なる圖版によつて餘蘊なく紹介されて居る。添へられた景福宮進饌圖